

Day

2

タイトル

2. SDGsのためのデータ収集  
(2) SDG指標 11.6.1 – 方法論と今後の活動の方向性

発表者

国連ハビタット 都市基盤サービス廃棄物管理ユニット Joyce Ouma

SDGsが何であるかを説明する前に、発表者はまずアフリカにおける廃棄物管理の現状について以下のとおり手短かにレビューした。

今後100年間、アフリカの人口は継続的に増加すると見込まれており、これは廃棄物の量も増加することを意味する。アフリカにおける廃棄物管理の共通の問題として、廃棄物をどのように処理するかにかかる規則が不明確であること、適切な廃棄物管理に関する人材の能力不足、収集機材は予備部品がなくメンテナンス能力が低いために常に不良状態にあること、リサイクルは主にインフォーマル・セクターによって行われ、彼らの多くは環境リスクにさらされていること、ごみはコントロールされていないオープンダンプサイトで処分されることが多い、といったことが挙げられる。適切な廃棄物管理の欠如は、時として悲劇につながる。例えば、ベナンとアディスアベバのダンプサイトでの崩壊事故では多くの人が犠牲となった。したがって、オープンダンプサイトの劣悪な状況を改善するために資金を調達する必要がある。

要約

SDGsは、2030年の在るべき姿に到達するための目標であり指標である。UN-Habitatは、「都市と居住環境を包括的に安全かつ災害に強い持続可能なものにする」というSDG11を担当している。そして、SDG指標11.6.1は、都市において発生する廃棄物の総量に対して定期的に収集され、かつ適切な最終処分が行われる割合を示す。

現在、指標の測定方法に関する方法論の議論が行われている。方法論の開発における重点課題は、定義を明確にすること、適切性の測定方法を確立すること(適切な排出とは何か)、レポートとモニタリング形式の開発、データの使い方と改善の視覚化を明確にすること、などが挙げられる。

今後の活動としては、1)方法論(廃棄物発生方法を含む)の開発、2)アフリカのパイロット都市における方法論の試行、3)既存の統計を用いて得られたデータの分析、4)方法論の最終決定、などが挙げられる。